数理で読み解く 石取りゲーム

『数学セミナー』連載訂正表

佐藤文広　　2010.5.11
●立教大学理学部

2010 年 3 月号（連載第 12 回）

72 ページ, 右側の段 7〜8 行目　「Wythoff (1910)」$\longrightarrow$「Wythoff (1905)」

2009 年 10 月号（連載第 7 回）

82 ページ, 第 2 節の 13 行目

$a \overset{*}{\times} b$ の定義中の $+$ は $\overset{*}{+}$ のミスプリ

（謝辞:城西大の小木曽岳義さんからご指摘いただきました。ありがとうございました。）

2009 年 8 月号（連載第 5 回）

70 ページ, 左の段，13 行目　「n と互いに素で 2 以上の個数」$\longrightarrow$「n より小さく、かつ、n と互いに素な個数」

72 ページ, 下から 3 行目

「されていようです」$\longrightarrow$「されていないようです」

（謝辞:城西大の小木曽岳義さんからご指摘いただきました。ありがとうございました。）

74 ページ, 第 4 節の終わりから 5 行目　「$S = \{s \mid s \geq 0,\ s \notin T\}$」$\longrightarrow$「$S = \{s \mid s \geq 1,\ s \notin T\}$」

2009 年 7 月号（連載第 4 回）

79 ページ, 補題 4.4　条件 (2) が不正確でした。

「$\mathcal{P} \in \mathcal{S}$ ならば」$\longrightarrow$「$\mathcal{P} \in \mathcal{S} - \mathcal{E}$ ならば」

$\mathcal{E}$ から移行できる局面は存在しませんから、当然、$\mathcal{E}$ に属す元は除外しなければいけませんでした。（謝辞:阪大の山崎洋平さんから雑誌発売直後にご指摘いただきました。ありがとうございました。）

2009 年 6 月号（連載第 3 回）

66 ページ左の段の中ほど　グランディ数の定義の条件 (1) に出てくる $\mathcal{E}$ に説明がありませんでした。

「$\mathcal{E}$ は連載第 2 回に現れた記号で、すべての終了局面からなる集合を表す。」

回が改まったので、説明すべきでした。

68 ページ右の段の中ほど ゲームの和の定義で

「終了局面は $\mathcal{E}_1 + \mathcal{E}_2$」
$\longrightarrow$「終了局面の集合 $\mathcal{E}$ は直積 $\mathcal{E} = \mathcal{E}_1 \times \mathcal{E}_2$.（$\mathcal{E}_1$, $\mathcal{E}_2$ はそれぞれゲーム $\mathcal{A}_1$, $\mathcal{A}_2$ の終了局面の集合）」

ここも $\mathcal{E}_1, \mathcal{E}_2$ の説明が抜けていました。

2009 年 5 月号（連載第 2 回）

60 ページの中ほど　集合 $N_1(P)$ を定める条件

$$「m_i - k \leq m'_i < m_i」 \longrightarrow 「m_i - k_i \leq m'_i < m_i」$$

2009 年 4 月号（連載第 1 回）

70 ページ冒頭の 3 行目　「数構造」 $\longrightarrow$「数理構造」